

福岡市西部地区における小児2次医療連絡協議会 議事要旨

■日 時 平成28年6月6日（火）19時30分～20時30分

■場 所 福岡市役所 15階 1504会議室

■会議次第

- 1 開会
- 2 委員長選出
- 3 議事
 - (1) 「福岡市立こども病院移転に関する小児2次医療連絡協議会とりまとめ（平成25年4月）」の確認
 - (2) 福岡市立こども病院の移転による影響について
 - (3) その他
- 4 閉会

■委 員（全員出席）

国家公務員共済組合連合会浜の町病院院長	一宮委員
福岡大学病院長	井上委員
独立行政法人国立病院機構九州医療センター院長	村中委員
福岡市医師会会長	江頭委員
福岡地区小児科医会会長	下村委員
地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院院長	原 委員
福岡市保健福祉局理事	永渕委員

■議事概要

1 開 会

2 委員長選出 全員一致により、福岡市医師会江頭会長を委員長に選出

3 議 事

(1) 議題1 「福岡市立こども病院移転に関する小児2次医療連絡協議会とりまとめ（平成25年4月）」の確認

○ 事務局：「資料2 福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会とりまとめ」説明

〈意見等なし〉

(2) 議題2 こども病院の移転による影響について

○ 事務局：「資料3 平成25年4月とりまとめのポイントと現状」に沿って説明

〈委員意見等〉

【各医療機関の現状について】

- こども病院の現状について、旧病院はそこまで救急車を受け入れていなかったが、新病院では年間1,000件以上受け入れている。また、西部地域からの入院患者数も、基礎疾患なしの患者数は（移転前に比べ）減っているが、西部地域全体の入院患者数は、あまり変わっていない。
- 浜の町病院の現状について、常勤医を1人増員し、病院が新しくなったこともあり、入院患者が増加しており、これ以上の受入余力はないが、2次医療の（受け皿としての）役割は果たせていると思っている。
- 福岡大学病院の現状について、病床としては、去年の小児科病床稼働率が80%前後なので、いつも空いている状況だが、回答書に「受け入れ余力がない」としているのは、小児科は本館と新館に分かれており、本館への動線が悪い（遠い）のと、今はもう大人だが子供の頃から診ている患者が小児科病床に4、5人おり、この患者の対応に小児科医の手が取られるのが原因である。これについては、院内で対策を考えており、内科で受け入れるよう調整しようと思っている。そうすると小児科医の手が空き、もう少し受入可能となる。小児外科については、小児外科医1人を増やして3人になったので、いい体制で頑張っている。

- ・九州医療センターの現状について、小児2次患者については、急患センターから時々受入れてはいるが、たくさんは受けられない。小児外科については、十分受入れ余力がある。

【浜の町病院の小児科病床のさらなる増床について】

- ・小児科医会会員からの意見では、福大病院や浜の町病院から受入れを断られることがあるとのことだったので、浜の町病院の小児科病床を増やしてもらいたい。浜の町病院は医師が4名とも女性であり、夜間受入れは難しいと思うが、会員も夜間に送らないように病院の状況を見ながら対応しているので、もう少し頑張ってもらいたい。
- ・浜の町病院の病床数については、総合病院の小児科は特殊診療科なので、新病院の小児科病棟は他の病棟とは遮断された1つのユニットにしている。近接する他の診療科病棟は満床であり、看護スタッフの観点からもユニットを跨いだ混合病棟化は不可能である。また、小児科は女性医師4人だけなので、増床はオーバーワークとなってしまう。

【福岡病院及び福岡赤十字病院の活用について】

- ・福岡病院は、喘息アレルギー呼吸を中心に診療していたが、治療法が変わり入院が少なくなり、外来診療にシフトしている。一般小児に対する受入れ体制に関しては、スタッフ含めかなり頼もしい。福岡病院の位置づけを西部地域の小児2次医療の大きなものとして考えていいと思う。
- ・地域のインフラとして、今ある（医療）資源を利用すべきである。
- ・福岡病院は（西部地域から見て）交通の便が悪いので、（患者家族に）紹介しても直ぐに「了解」とはならない。
- ・勤務医の立場からすると、4人の小児科医で365日24時間対応は無理なので、常勤の小児科医が7人いる福岡病院や福岡赤十字病院、17人いる福岡大学病院を活用しなければ小児科医が疲弊してしまう。患者を送る側もそのあたりを理解していただきたい。福岡病院、福岡赤十字病院も（西部地域から）そこまで遠いとは言えないので、そこを活用してもらおうのが大切ではないか。
- ・これは1次（外来）医療ではなく2次（入院）医療の問題なので、地域にある医療資源を有効活用して「みんなで支えあう」ということも必要ではないか。
- ・こども病院移転を契機に地域の病院の先生方が一堂に会して、小児2次医療をどうするかという議論ができ、みんなで協力しようという雰囲気できたことは非常に良かったと思う。また、福岡赤十字病院や福岡病院が地域の中で小児の2次医療を作っていこうという前向きな気持ちを持っていることは大変ありがたいことで、大事にしていくべき

ものである。

【総括について】

- こども病院移転後の診療圏全体で見ると医療資源は足りているという解釈ができる。
- 西部地域から利便性の高い浜の町病院の増床は物理的に困難とのことであるので、解決方法として、小児医療情報ネットワークをより有効活用して、福岡病院や福岡赤十字病院を活用する。
- ただし、通院圏で見ると、個々の事例によっては利便性の問題があるという意見がある。

(3) 議題3 その他

〈特になし〉

4 閉 会